２０１５年　５月　25日

公益財団法人 笹川記念保健協力財団
理　事　長　喜　多　　悦　子　殿

神戸市立医療センター西市民病院
看護師長

後藤　たみ　印

２０１４年度日本財団ホスピスナースネットワーク会員に対する海外研修助成
研　修　報　告　書　の　提　出　に　つ　い　て

標記について、下記のとおり報告いたします。

記

１．研修期間　２０１５年 4月３０日 ～ 5月 3日（4日間）

２．参加学会名　Asia Pacific Hospice Palliative Care Network 2015 Taipei

３．研修報告書

Ⅰ　本研修の成果：学んだこと、今後役立つと思う点について

今回『Transforming Palliative Care』～変化する緩和ケア～という学会テーマに基づき様々な角度からシンポジウムが開催されていた。その中で、印象に残った講演について感想を述べる

WORLD HEALTH ASSMEBLY RESOLUTION 2014 THE CHALLEAGE TO PALLIATIVE CARE : Dr Stephen Connor

スティーブン　コナー先生の話を聞くのは、今回で2回目になる。前回は2008年に上智大学名誉教授であるアルフォンス・デーゲン先生とニューヨーク・ワシントンへの海外視察の際で、全米ホスピス緩和ケア協会（National Hospice and Palliative Care Organization）会長のお立場で『アメリカの緩和医療の現状について』講義をしてもらったが今回は、Worldwide Hospice Palliative Care Alliance（世界緩和ケア連合）の上席研究員としての講演であった。スライドでは、世界のパリアテイブケアに関するデーターが記され、2014年１月に開催されたWHOの提言も出ていた。会場では十分内容が把握できなかったため、帰国

後、WHOのホームページを開き確認した。その内容はガンやHIVなどに起因する中程度または極度の痛みを経験して亡くなる毎年2,000万人、および痛みなどの症状を和らげるために疼痛緩和を必要とする毎年4,000万人推計で毎年650万人が鎮痛剤をいっさい利用できないまま亡くなっているという現状があることを知った。また、その背景として緩和ケアが世界の大半の国で未だ利用が難しく2011年の世界緩和ケア連合の調査では調査対象国の7割が緩和ケアの体制が十分でないという状態だとあった。私はこれらの数字や事実を知り、改めてこのような国際学会開催の意義と日本においても更なる普及・質の向上が必要であり、アジアから世界に発信できるようリーダー的役割が求められるのではないかと感じた。私自身今までWHOの会議報告書を読んだことがなかったため、今後も興味を持って定期的に情報を得たいと思った。そして、様々な活動機関、特に世界緩和ケア連合についても初めて耳にしたが、どのような役割をして活動をしているのかも知ることができた。

What Level of Practice Do I Aspire to　:　Rosalie Show

財団の第1回目ホスピスケアナース研修会にロザリーシュー先生が講演されたことは、先輩方から聞いていたので、このたび講演を直接聞くことができとても感銘した。ご自分の緩和ケアにおける影響を受けた人や出来事を振り返りながら熱く語っておられた。その中でも、今まで関わってきた患者さんから教えられたことも多いというスライドがあり、当たり前のことではあるが実践経験のみでなく、知識・技術を高め、目の前のケアに全力で取り組むべきであると感じた。

その他の講演では、　日本でもコミュニーケーション技術の中で『聞く』と『聴く』が漢字で比較され『聴く』に徹してということが言われるが、このたびの講演の中で『聴く』という文字の解説があり、耳（ear）あなた（you）目（eye）心（heart）常に関心を持つ（undivided attention）ことだといわれ実感できた。

Ⅱ　今後の課題等

国内でも、ホスピスケアに関しての認知度は高くなってきてその普及は、めざましいと思っていた。しかし、普及はしてきたもののまだまだ質の確保では発展途中であり、今後はがんにとどまらず認知症などの超高齢者ケアエンドオブライフケアの本質が問われる社会が間もなくやってくる。そこでの看護師の役割はより高まることは明らかである。その中でホスピスケアナースとして、より専門性・人間性を高めていけるよう、国内だけではなく、今回のような国際学会にも参加し、より広い視野や情勢を知ることは、意義のあることと再確認をした。そのためにも語学力を身に着け、学会会場での内容を理解し意見交換ができるようになりたいと思う。

Ⅲ　本研修助成についての改善点及び当財団へ対するご意見ご要望など

今回は、APHCに参加する機会をいただき誠にありがとうございました。日本で開催される国際学会に参加をしたことはありましたが、海外での参加は初めてでした。先の課題のところでも述べましたが、専門分野において視野を広げることは重要と思いつつも日々の業務に追われているのが現状です。

その中で財団はいつも時代の先を見据えた先駆的活動をされていると感じており、今回のような国際学会をはじめ新しい活動や情報を発信していただけたらと希望いたします。